

6 3 6 1 - 8 8 1
平成19年11月27日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第9号について
平成19年度病害虫発生予察注意報第9号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第9号

平成19年11月27日
宮 崎 県

病害虫名 ミナミキイロアザミウマ
作物名 ピーマン

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 -
- 3 発生量 やや多

4 注意報の根拠

- 1) 11月中旬の巡回調査における発生面積率は73.3%（平年47.7%、前年69.3%）で平年と比べてやや多である。また、10花虫数は5.2頭（平年1.6頭、前年3.3頭）で、平年より多であり、この時期の発生としては過去10年で最も多い。
- 2) 向う1ヶ月の長期予報によると、晴れの日が多く、気温は平年並と予想されており、ミナミキイロアザミウマの増殖に好適な条件が続くと考えられる。

（鹿児島地方気象台 11月23日発表）

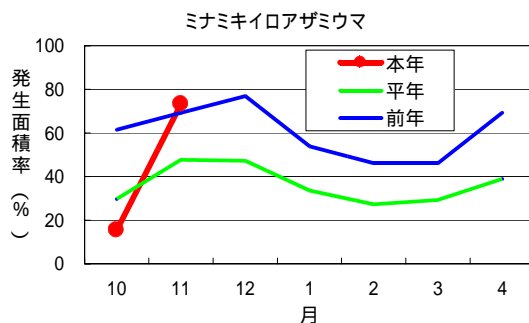


図1 発生面積率の推移

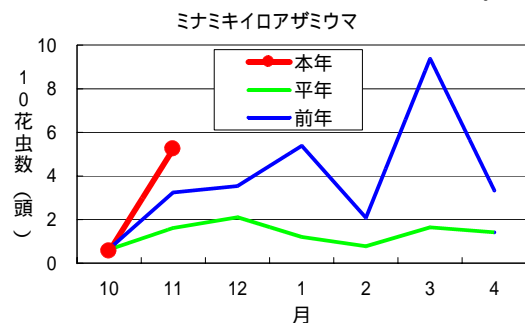


図2 10花あたり虫数の推移

5 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見・早期防除に努め、下記のポイントに留意し、総合的な防除を行う。

ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近に生息し、また青色粘着トラップ等に誘引されるので、目視観察し早期発見に努める。

繁殖力がきわめて旺盛で、高密度時には卵～成虫まで各ステージが混在する。そのような状態になると、防除が著しく困難となるので、発見次第初期防除を徹底する。密度が増加してしまった時には、薬剤散布後に新たに発生（孵化、羽化）する幼虫、成虫に対しての追い打ち防除（間隔を置いた連続散布）が必要である。

本虫は、各種薬剤に対する感受性が低くなっており、薬剤だけに頼る防除は難しいので、天敵や微生物農薬等による生物的防除等を組み入れるなど総合的な対策を取ることが必要である。

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努めるとともに、防除に当たっては農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

被害の激しい茎葉・果実のハウス外への持ち出し（ハウス内でのビニール袋等による密封処理後が望ましい）や、マルチの導入（土中や地表面での蛹化を防止）により密度低下をはかる。

- 2) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp